

田村市石森地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 畑での連作ほ場が多いため、地力向上と病害虫や雑草対策の徹底による収量及び品質の向上を図る。
- ・緑肥や堆肥を施用による土づくり
- ・中耕培土や病害虫防除による品質向上



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】
(R3) 水稻:7.5 ha、大豆:5.0ha⇒(R7) 水稻:8.2ha、大豆:5.2ha
- 石森地区の中心的な担い手として、水稻・大豆の生産、作業受託を行っている。R4産より田村市外でも大豆栽培を開始した。
- 市内の大豆の刈取作業～乾燥調製受託もを行っている。
(R3:3.7ha⇒R7:4.8ha)



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<(R5)狭畦栽培やドローン防除による省力化の検討>

- 一部ほ場で、狭畦栽培とドローン防除を試験し、省力化を図った。

<(R6)排水対策や効果的な害虫対策の検討>

- レーザーレベラーでの圃場の傾斜化と明渠の設置による排水改善や、カメムシ類対策の防除を検証した。



<(R7)地力向上や難防除雑草対策の検討>

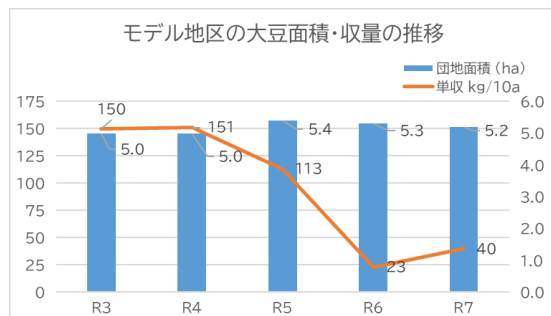
- 堆肥や緩効性肥料の施用による地力向上や、難防除雑草「アレチウリ」の体系防除による収量向上効果を検証した。



4 取組成果

<実証ほでの排水対策や防除等の改善による収量の向上>

- (R6) ほ場の傾斜化と額縁明渠の設置により排水性が向上し、実証区の出芽揃いが改善した。また、「アミスタートレボンSE」の追加散布を行った実証区ではカメムシ類等の虫害粒が少なかった。
- (R7) 堆肥施用や緩効性肥料による追肥により、実証区の生育後半の生育が良くなり、収量が向上した。また、アレチウリ対策の除草剤体系防除により、雑草発生が抑制でき、大豆の収量向上につながった。
- 現地検討会で実証内容を生産者へ周知した。
- モデル地区面積：R3→R7 0.2ha増加



5 残された課題

- 実証した技術（排水対策、地力向上、雑草防除）を団地全体への導入を推進する。
- 高温・干ばつへの対策、難防除雑草（アレチウリ）の異なる除草剤体系での検討が課題である。